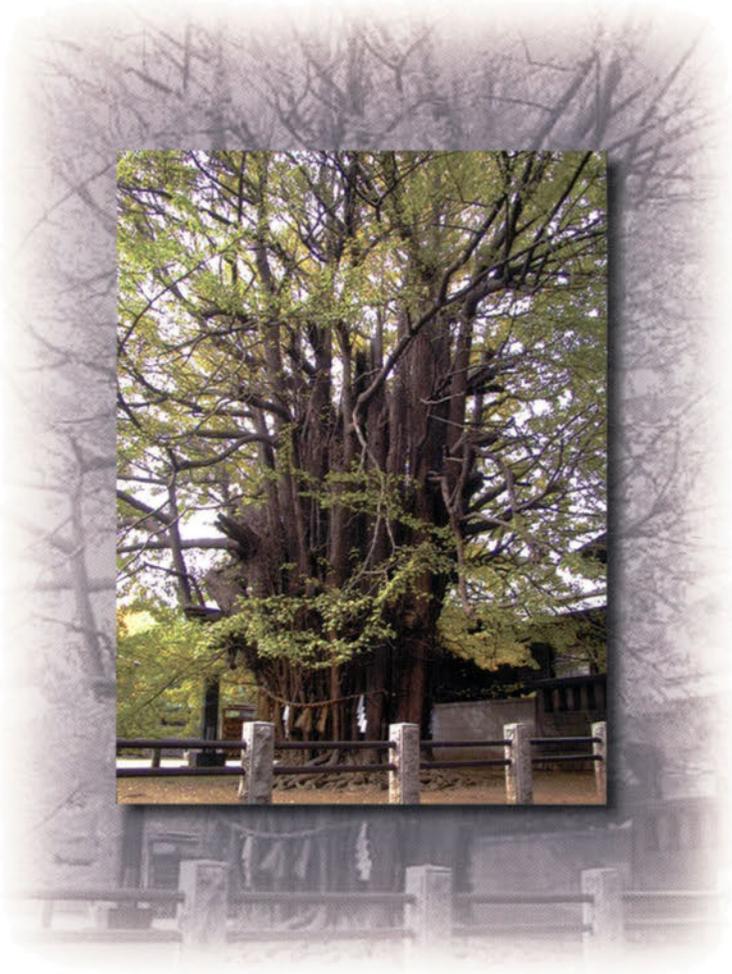


JSCLA



JAPAN
SOCIETY
FOR
CLINICAL
LABORATORY
AUTOMATION

40th

臨床検査の
自動化とともに

日本臨床検査自動化振興会

Japanese Association for Clinical Laboratory Automation

日本臨床検査自動化学会 (JSCLA)・ 日本臨床検査自動化振興会 (JACLA) 40年をふりかえって

JSCLA会長 中井利昭
JACLA理事長

はじめに

日本臨床検査自動化学会大会ならびに併催の展示会はこの横浜の地で第40回を迎えることになりました。40回という1つの節目を迎え、ここに40年の歩みをふりかえってみた小冊子を作成した次第です。臨床検査関連の先人の歩みをふりかえって、今後のわれわれの進むべき方向の道標を模索することは意義のあることと思います。

JSCLAの歩み

自動分析機（オートアナライザー）開発はSkeggs（1956年）によるものでありますが、何種類もの検査項目が数千件も分析可能な画期的な発明、まさに検査にとっての産業革命といってよいものでした。この発明を応用したテクニコン社のオートアナライザーが1960年にはじめて日本に導入されたのに呼応して、1961年に「オートアナライザー研究会」が創設されました。その後ディスクリート方式の機器も開発され、1965年に「臨床化学自動分析研究会」と改称され、さらに臨床化学だけでなく血液自動分析装置の開発も始まったため1969年「臨床検査自動化研究会」へと発展しました。この年第1回の大会が東京大学榎田良精教授の下東京の番町共済会館で、展示会も併催され行われました。第1回はわずか200人ほどの参加数でしたが、その後年を追って盛会となり、1981年には「日本臨床検査自動化学会 (JSCLA)」と改称されました（1981年には3000人を超える参加数となりました）。1981年第13回大会・展示会以降は検査部門の中央化の展開と相俟ってさらに飛躍的な発展にいたしました。

2000年には会長として長きにわたってJSCLAの発展のために尽力されてこられた茂手木皓喜会長に代わり私が会長を引き受けることになりました。新しい機器・試薬の情報交換の場の学会として機器・試薬の検討の発表形式は従来どおりつづけますが、検査技術を主体とした検査学の学問的レベルアップを図ることも大きな主眼におきたいと考えました。特別講演は学問的香りの高いものとし、シンポジウムも内容を充実させました。また新たに科学技術、遺伝子、POC推進、チーム医療実践の4つの委員会を設置しました。とくにPOC推進委員会ではPOCTコーディネーターの認定制度に向けてコーディネーター研修修了証の発行など多彩な活動を行っています。また遺伝子も昨年より他学会に先駆けて遺伝子・プロテオミクス委員会と改称しプロテオミクスの領域までその活動を広げました。皆様方のご支援、ご協力のおかげで年々参加数

が増え、昨年39回大会では大会参加数2300人、展示会参加数8000人弱と大変な盛会であったように、秋の大会・展示会は検査界の一大イベントとあってよいものとなりました。

JACLAの歩み

1969年の第1回大会から併催して展示会が開催され、第1回5社から第4回32社と出展会社が増えてきたため、それまでの学会の先生方に代わり第5回大会から展示業務委員会が展示運営を担当することになりました。展示参加会社はその後順調に増え、1988年には100社を超えるまでに至りました。この年米国臨床化学会（AACC）と相互に展示小間を交換する友好関係を結びました。1996年からはMEDICAとも展示交換するようになりました。このように業務が拡大されてきましたので、1992年に業務会を改組して「日本臨床検査自動化振興会（JACLA）」と改称しました。2002年より日本臨床検査医学会との共催展示会として協約が成立し、さらに盛況になってきました。前茂手木理事長の後を受けこの8年間理事長を務めさせていただいてきましたが、今後も次年度の新しい検査室の構築に役立つべく展示会のさらなる充実を図り検査界発展に尽くしたい所存です。

春季セミナー

自動化学会の秋の大会は大型機器の搬送と展示の関係上東京と神戸に固定していますので、遠方などの理由で大会に出席できない方々のため春は日本の各都市をもちまわって、新しい検査機器・試薬の普及を図るという目的で春季セミナーが企画されました。今年ですでに22回となりそれぞれの地方で検査の向上に役だつ成果をあげてきております。

最後になりますが、この冊子出版をはじめ展示会全般にわたって振興会の方々のご努力に感謝する次第です。

■日本臨床検査自動化学会展示会年表

大会年度	大会長	展示会場	出展会社数	入場者数	学会一般演題数	学会登録者数	特別講演・シンポジウムなど
第1回 1969(昭44)	榎田 良精 (東京大学)	番町共済会館	5 (社)	(人)	16		
第2回 1970(昭45)	榎田 良精 (東京大学)	日消ホール	11		33		
第3回 1971(昭46)	榎田 良精 (東京大学)	全共連ビル	22		29		
第4回 1972(昭47)	奥田 清 (大阪市立大学)	大阪 OMM ビル	32		52		シ I : 検体検査へのコンピュータ導入—その経験と問題点— シ II : 酵素活性の自動測定
第5回 1973(昭48)	石井 暢 (昭和大学)	都立産業会館 (大手町)	51	1,800	57		シ : 臨床検査(検体検査)のデータ処理システム
第6回 1974(昭49)	茂手木皓喜 (東京大学)	都立産業会館 (大手町)	55	2,000	53		シ : 自動分析機器の保守上の諸問題
第7回 1975(昭50)	熊原 雄一 (大阪大学)	大阪国際 見本市会館	54	2,200	76		シ I : Rate assayによる酵素活性測定自動分析の問題点 シ II : 自動分析における精度管理ならびに標準物質について
第8回 1976(昭51)	春日 誠次 (関東通信病院)	都立産業会館 (大手町)	49	2,300	80		シ : 多項目同時測定における“正常値”—いくつかの観点からの考え方と評価—
第9回 1977(昭52)	斉藤 正行 (北里大学)	都立産業会館 (大手町)	65	2,400	72		教 : 細菌検査臨床領域における自動化の現状と将来 シ : 血液凝固検査の自動化とその評価
第10回 1978(昭53)	榎田 良精 茂手木皓喜 (関東中央病院) (東京都立駒込病院)	都立産業会館 (大手町)	62	2,400	123		特 : 臨床病理におけるミニおよびマイクロコンピューターの役割 (Y.Takenaka・テキサス大) シ : 臨床検査の情報処理—その現状と評価—
第11回 1979(昭54)	林 長蔵 (大阪大学)	大阪国際見本市会館 大阪商工会議所ビル	81	2,800	175		パ I : 少数検体多項目測定用全自動分析装置をめぐって パ II : 臨床検査におけるシステム化—その組立と実用をめぐって— シ : 血清GOT活性標準的測定法の自動分析—機器と機器への通用—
第12回 1980(昭55)	大森 昭三 (東京通信病院)	科学技術館	88	2,900	133		特 : マイクロカロリメトリーの臨床検査への応用 (山村雅一・佐賀医大) シ : パターン認識による白血球自動分類装置の現状と限界
第13回 1981(昭56)	清瀬 闔 (三井記念病院)	科学技術館	82	3,300	147		教 I : 血液凝固能検査の自動化及び標準化 教 II : 細菌検査自動化の現状と将来

大会年度	大会長	展示会場	出展会社数	入場者数	学会一般演題数	学会登録者数	特別講演・シンポジウムなど
第14回 1982(昭57)	馬場 茂明 (神戸大学)	神戸ポートアイランド 国際展示場	(社) 93	(人) 3,300	136		特：The Development of Centrifugal Analyzers. (Norman G. Anderson. Ph.D. Division of Biological and Medical Research) シI：新しいテクノロジーの展開 シII：明日の臨床検査を探る
第15回 1983(昭58)	高原喜八郎 (神奈川県立 衛生短期大学)	科学技術館	94	3,500	170		特：Standardization of Evaluation Technique for a New Developed Instrument. (Alvin・Bubin・Cook County Hospital) シ：免疫血清学的検査自動化の現状と将来
第16回 1984(昭59)	丹羽 正治 (東海大学)	科学技術館	95	3,600	188		特：マクロ医療経済における自動化 (石原信吾・(社)病院管理研究協会) シ：検査・周辺業務のシステム化
第17回 1985(昭60)	山崎晴一郎 (福岡労衛研附属 動脈硬化研究所)	神戸ポートアイランド 国際展示場	88	3,500	186		大：Dry Chemistryの現状と将来 (山崎晴一郎・福岡労衛研) シ：専門診療部門における臨床検査の自動化、システム化
第18回 1986(昭61)	山中 學 (東京大学)	科学技術館	95	3,600	192		特：蚊の吸血機構・吸血器官の構造、作用、センサ (池庄司敏明・東京大学) シ：新しいセンサーの開発
第19回 1987(昭62)	水田 亘 (神戸常盤短期大学)	神戸ポートアイランド 国際展示場	94	3,800	221		特：港湾の自動化 (松浦勢一・神戸市) シ：病態解析の自動化
第20回 1988(昭63)	茂手木皓喜 (大東医学技術専門学校)	神戸ポートアイランド 国際展示場	100	4,000	213		特：医療をめぐる諸問題 (谷修一・厚生省) 特：Standardization in Clinical Laboratory Automation (H.S. Hertz Ph.D. NBS, U. S.A) Clinical Laboratory Instrumentation and Automations —Present and Future—
第21回 1989(平1)	佐々木禎一 (札幌医科大学)	科学技術館	124	4,800	235		招：Development of a Clinical Chemistry Analyzer for Medical Laboratory Diagnostics at the NASA International Space Station Freedom (Bruce. A. Mckinley, Ph.D. KRUG International Johnson Space Center, Houston, Texas, U.S.A) シI：Doping Test, its Analytical Manners and Automatization シII：検査センターの自動化—その現状と特徴
第22回 1990(平2)	工藤 肇 (弘前大学)	幕張メッセ 国際展示場	144	5,900	257		招：第二次世界大戦前の臨床検査の状況 (羽田春免・日本医師会)
第23回 1991(平3)	金井 正光 (信州大学)	幕張メッセ 国際展示場	131	7,000	261		招：Ion Sensors in Medical Use (W. Simon, Ph.D. Swiss Federal Institute of Technology) 招：The Role of the High Density Lipoprotein Receptor in Lipid Metabolism (Noel H.Fidge, Ph.D. Baker Medical Research Institute Melbourne, Australia) シ：臨床検査の自動化……21世紀への展望
第24回 1992(平4)	高橋 浩 (天理よろづ相談所病院)	神戸ポートアイランド 国際展示場	132	7,300	265		特：勢いにまかせて走りまくり、一息いれてみれば (柴田進・川崎医大) 大：臨床検査の自動化と技師、医師教育 (高橋浩) シ：臨床検査の原点に立ち、今後の診療への貢献を探る
第25回 1993(平5)	服部 理男 (埼玉県立がんセンター)	幕張メッセ 国際展示場	128	8,100	304		特：HIV感染症 (高月清・熊本大学) 大：がん医療、その未来と問題点 (服部理男) シ：医療感染症と臨床検査

大会年度	大会長	展示会場	出展会社数	入場者数	学会一般演題数	学会登録者数	特別講演・シンポジウム
第26回 1994(平6)	水岡 慶二 (三井記念病院)	幕張メッセ 国際展示場	121 (社)	7,900 (人)	359		特：HLA検査30年の歩み；自動化への条件（狩野恭一・オリンパス光学工業） 教：免疫組織学的迅速診断法を応用したTEN型薬疹の早期診断について シ：わが国における臨床検査自動化のピットホール
第27回 1995(平7)	大場 康寛 (近畿大学)	神戸ポートアイランド 国際展示場	121	7,800	337		特：臨床検査の自動化・システム化の軌跡を辿り、近未来の軌道を探る（佐々木匡秀・高知医大） 特：マイクロマシン技術を用いるバイオセンサー（軽部征夫・東京大学） パ：飛び交う検査医学情報の整理・整頓
第28回 1996(平8)	亀井 幸子 (東京医科歯科大学)	幕張メッセ 国際展示場	124	7,700	295		特：未来博物館ルポルタージュ；医学とエレクトロニクスの出会いから成熟まで（古川俊之・東京大学） 大：自動化の夢をかきたてるエレクトロニクス（亀井幸子）
第29回 1997(平9)	中井 利昭 (筑波大学)	パシフィコ横浜 展示ホール	121	8,100	309	2,305	特：異種遺伝子発現技術の検査薬への応用と将来、組換えCRP(rCRP)の特性と検査薬としての有効性（松尾雄志・オリエンタル酵母工業） シI：ニューテクノロジーを駆使した血液検査の自動化・システム化 シII：今、この領域の標準化に向けて シIII：微生物検査におけるPCR法の評価と今後の展望
第30回 1998(平10)	茂手木皓喜 (日本臨床検査自動化学会)	幕張メッセ 国際展示場	114	7,600	243	1,837	特：ジャーナリストからみたがん診断の現状（宮田親平） シ：明日のラボラトリーマネージメントへ向けて—検査部の将来への期待—
第31回 1999(平11)	巽 典之 (大阪市立大学)	神戸ポートアイランド 国際展示場	103	5,572	294	1,750	特：造血幹細胞移植と臨床検査（正岡徹・大阪府立成人病センター） シI：LDLコレステロール検査の最前線—直接法の技術評価と臨床— シII：有核赤血球計測の臨床的意義と標準化 シIII：検査効率に貢献する検査システム
第32回 2000(平12)	池田 齊 (埼玉医科大学 総合医療センター)	パシフィコ横浜 展示ホール	107	7,167	292	1,976	特：循環器病の病態マーカー（永井良三・東京大学） シI：炎症マーカー up to date シII：激動に生き残る検査室—信頼・サービス・効率を求めて— シIII：臨床に直結した微生物検査の構築
第33回 2001(平13)	岡田 正彦 (新潟大学)	パシフィコ横浜 展示ホール	96	6,541	257	1,811	特：リスクマネージメント：臨床検査における医療過誤（押田茂實・日本大学） シI：激動時代に生きる検査室：24時間検査への対応 シII：あらためて臓腑の検査を考える シIII：院内感染対策の戦略と実践 シIV：凝固・線溶検査を整理する
第34回 2002(平14)	松尾 収二 (天理よろづ相談所病院)	神戸ポートアイランド 国際展示場	93	5,693	252	1,807	特：21世紀の新技术—センシングと遺伝子チップ—（尾崎幸洋・関西学院大、油谷浩幸・東京大学） シI：激動の時代を生きる臨床検査 シII：高めよう広げよう微生物検査 シIII：日常的な血液学的検査の疑問に答える シIV：自動化時代における臨床検査と臨床検査技師
第35回 2003(平15)	家入蒼生夫 (獨協医科大学)	パシフィコ横浜 展示ホール	96	6,297	251	1,942	特：マイクロチップと手のひらサイズの検査室（北森武彦・東京大学） シI：画像処理システムの進歩と検査の自動化 シII：血小板検査の進歩 シIII：チーム医療を実践する—NST(栄養サポートチーム)の一員として シIV：薬剤耐性菌検出における自動細菌検査装置の役割

大会年度	大会長	展示会場	出展会社数	入場者数	学会一般演題数	学会登録者数	特別講演・シンポジウムなど
第36回 2004(平16)	吉田 浩 (福島県立医科大学)	パシフィコ横浜 展示ホール	95 (社)	6,645 (人)	231	1,786	特：21世紀のライフサイエンスと臨床検査（水島裕・東京慈恵医大） シⅠ：医療効率を高めるための臨床検査再構築 シⅡ：免疫学的測定進展に伴う諸問題 シⅢ：抗酸菌検査の今後と課題 シⅣ：血液検査の新しい流れ
第37回 2005(平17)	杉浦 哲朗 (高知大学)	パシフィコ横浜 展示ホール	100	7,043	253	1,856	特：幹細胞システムと再生医療（中内啓光・東京大学） シⅠ：院内感染制御に役立つ検査情報システム—ここまでできる臨床支援システム— シⅡ：血液学的検査の標準化と新たな展開 シⅢ：ポストゲノム時代の生命科学と臨床検査への応用 シⅣ：自動化検査部門におけるデータマイニング技術の活用
第38回 2006(平18)	渡辺 直樹 (札幌医科大学)	神戸ポートアイランド 国際展示場	104	6,776	344	2,274	特：オーグーメイド医療の確立に向けて（中村祐輔・東京大学） シⅠ：血液学的検査機器の自動化と新たな付加機能 シⅡ：院内感染対策に直結した微生物学的検査体制の構築 シⅢ：腫瘍マーカーの分子機能はどこまで解っているのか シⅣ：リアルタイム検査の拡大への秘策
第39回 2007(平19)	野村 文夫 (千葉大学)	パシフィコ横浜 展示ホール	104	7,791	339	2,304	特：糖鎖研究3大基盤ツールの開発—新たな糖鎖バイオマーカー発見に向けて（成松久・産業技術総合研） シⅠ：肝炎ウイルスマーカー2007—効率的スクリーニングから最新知見まで— シⅡ：尿検査で病態にどこまでせまれるか？ シⅢ：メタボリックシンドロームを検査する シⅣ：血液検査のグローバルな標準化—その現状と対策—
第40回 2008(平20)	桑 克彦 (筑波大学)	パシフィコ横浜 展示ホール	103		340		特：ナノバイオテクノロジーとPOC対応型センサー（民谷栄一・大阪大学） シⅠ：遺伝子検査の自動化に向けて シⅡ：自動分析装置情報を用いた検査データの保証 シⅢ：特定健診検査データの解析と保健指導 シⅣ：血液領域におけるピットフォール—日常臨床検査の経験より—

回数	開催地	例 会 長	出展会社数	主なるシンポ、講演など
第1回 1987(昭62/5/30)	盛岡	伊藤忠一 (岩手医大)	28	基：免疫血清検査の将来展望と自動化（伊藤忠一） 教：AIDSおよび臨床検査について（玉川重徳・都立駒込病院）
第2回 1988(昭63/5/21)	松江	遠藤治郎 (島根医大)	19	基：臨床検査の自動化—その発想の転換（遠藤治郎） 特：バイオセンサー最先端技術：医用バイオセンサー（相澤益男・東工大）
第3回 1989(平1/6/24)	熊本	岡部紘明 (熊本大)	26	基：緊急検査の意義と自動化（岡部紘明・熊本大学） 機1：緊急検査機器の測光部位の理論 機2：各種緊急検査装置の理論と解説ならびに実地運転，他
第4回 1990(平2/5/26)	金沢	松原藤継 (金沢大)	23	特：精度管理の歩みと現状（北村元仕・(財)緒方医学化学研究所） シ：ラボラトリーオートメーションにおける精度管理 ：実技をとまうリアルタイム精度管理の実際
第5回 1991(平3/6/1)	長崎	白井敏明 (長崎大)	19	特：初期診療における検査とその利用（関口 進・防衛医科大学） シ：診療現場における臨床検査
第6回 1992(平4/4/11)	新潟	屋形 稔 (東新潟病院)	14	基：自動化とのつきあい（尾形 稔・東新潟病院） シ：イムノアッセイ標準化の現状と諸問題
第7回 1993(平5/3/13)	水戸	中井利昭 (筑波大)	19	特：21世紀の病院システム化への提言（岡田正彦・新潟大学） シI：感染症DNA診断のpitfall シII：バイオ・ナノ・フォトルスポンシブセンサーの最前線
第8回 1994(平6/5/8)	宜野湾 (沖縄)	外間政哲 (琉球大)	14	特：これからの検査はいかにあるべきか—自動化・システム化の繁栄を望んで—（茂手木皓喜・自動化学会） 教：甲状腺疾患の今日的な検査法（高須信行・琉球大学） シ：微生物検査自動化の現状とこれからの展望
第9回 1995(平7/4/21)	秋田	上杉四郎 (秋田大)	17	基：なぜ自動化か（上杉四郎・秋田大学） ビデオ・セミナー：自動化検査のニューフロンティア
第10回 1996(平8/4/19)	高知	佐々木匡秀 (高知医大)	17	特：これからの検査はいかにあるべきか—自動化・システム化の繁栄を望んで—（茂手木皓喜・自動化学会） 招：大手企業のシステム化から学ぶ
第11回 1997(平9/4/26)	福島	吉田 浩 (福島医大)	22	特：臨床検査自動化—日本と世界の現状—（佐々木匡秀・高知医科大学） 教I：免疫血清検査領域における自動化（伊藤忠一・岩手医科大学） 教II：自動化の周辺と問題点（菅沼源二・医総研）

回数	開催地	例 会 長	出展会社数	主なるシンポ、講演など
第12回 1998(平10/4/18)	甲府	久米章司 (山梨医大)	11	特I：遺伝子検査の現状と将来(櫻林郁之介・自治医大大宮医療センター) 特II：臨床検査の今後への展望(中原一彦・東京大学) 招：肝炎ウイルス診断・治療の最前線(鈴木 宏・山梨大学)
第13回 1999(平11/4/24)	大宮	池田 斉 (埼玉医大)	13	特：血液型の発見から輸血検査の自動化まで(遠山 博・埼玉医大総合医療センター) シI：便潜血検査の問題点と標準化 シII：DRGの周辺とその影響
第14回 2000(平12/4/15)	壬生 (栃木県)	家入蒼生夫 (獨協医大)	12	特：Evidence-based medicineと臨床検査(岡本高宏・東京女子医科大学) シI：“新世紀の自動化と情報のマイルストーン” シII：“再興する結核症に自動化はどう立ち向かうのか？”
第15回 2001(平13/4/7)	大阪	高橋伯夫 (関西医大)	10	特：骨髄・臓器移植の展望(池原 進・関西医科大学) シI：動脈硬化性疾患の新しい診断マーカー シII：迅速検査ーラピッド・レスポンスラボラトリーの新展開ー
第16回 2002(平14/4/13)	倉敷	影岡武士 (倉敷中央病院)	12	特：再生医療の現状と未来ー人類に夢を与えるか(中村敏一・大阪大学) シI：医療環境の大変革に対峙する病院検査部の自己変革 シII：腫瘍マーカーの新しい使い方とその実践
第17回 2003(平15/4/5)	津	登 勉 (三重大)	10	特：肝移植医療の現状と将来(上本伸二・三重大学) シI：テーラーメイド医療と遺伝子検査 シII：臨床検査から見た生活習慣病
第18回 2004(平16/4/3)	広島	神辺真之 (広島大)	11	特：遺伝子検査ー基礎研究から検査室へー(上田國寛・京都大学) シI：臨床検査の自動化の方向性 シII：21世紀の病院検査室の運営はどうあるべきか
第19回 2005(平17/4/2)	盛岡	諏訪部章 (岩手医大)	11	特：HbA _{1c} 標準化の国際的動向と日本の対応(富永真琴・山形大学) シI：検診の新しい展開と検査部の取り組み シII：検査室のルネサンスと検査技師の意識改革
第20回 2006(平18/4/8)	甲府	尾崎由基男 (山梨大)	11	特：プロテオミクスによる疾患の病態解析(荒木令江・熊本大学) シI：血栓症・DICの臨床と検査のガイドライン シII：検査のブラックボックスにどう立ち向うか
第21回 2007(平19/4/7)	岡山	小出典男 (岡山大)	12	特：我が国における臓器移植の現状と問題(清水信義・岡山大学) シI：ここまで変わった肝機能検査 シII：羽ばたこう臨床検査技師
第22回 2008(平20/4/26)	弘前	保嶋 実 (弘前大)	15	特：食塩と高血圧ー進化の宿命ー(伊藤貞嘉・東北大学) シI：外来迅速診断に役立つPOCT シII：癌マーカーの診察前検査

回数	ナイトセミナー 機器・試薬セミナー	サテライトセミナー	ランチョンセミナー
第13回 昭56 (1981)	19		
第14回 昭57 (1982)	—		
第15回 昭58 (1983)	15		
第16回 昭59 (1984)	17		
第17回 昭60 (1985)	24		
第18回 昭61 (1986)	25		
第19回 昭62 (1987)	26		
第20回 昭63 (1988)	31		
第21回 平 1 (1989)	28		
第22回 平 2 (1990)	34		
第23回 平 3 (1991)	27		
第24回 平 4 (1992)	36		
第25回 平 5 (1993)	34		
第26回 平 6 (1994)	33		

回数	ナイトセミナー 機器・試薬セミナー	サテライトセミナー	ランチョンセミナー
第27回 平7 (1995)	38		
第28回 平8 (1996)	36		
第29回 平9 (1997)	33		5
第30回 平10 (1998)	25		6
第31回 平11 (1999)	27		6
第32回 平12 (2000)	32	5	6
第33回 平13 (2001)	24	5	7
第34回 平14 (2002)	14	11	11
第35回 平15 (2003)	9	11	11
第36回 平16 (2004)	14	11	9
第37回 平17 (2005)	14	10	9
第38回 平18 (2006)	13	13	14
第39回 平19 (2007)	14	9	19
第40回 平20 (2008)	16	7	20

回数	テーマ名
第29回 平9 (1997)	自動分析装置の基礎特性試験の方法 (東芝メディカル(株)) Quality Control : What do we do? What should we do? (日本バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)) 検量用酵素標準物質(検量用ERM)の特性と使い方 (関東化学(株)) 血液ガス/電解質分析装置OMNIモジュラーシステム (株)エイヴィエル) プロトンピン時間(PT)測定 of 標準化と病態 (東亜医用電子(株))
第30回 平10 (1998)	白血球数とCRPの同時測定の意義と医療効率向上の評価 (株)堀場製作所) 微生物検査自動化の新しい展望 (日本ビオメリュー・バイテック(株)) What you should look for in a Quality Control Partner (日本バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)) 次世代総合血液学検査装置アドヴィア120の臨床へのアプローチ (バイエル・三共(株)) 肝炎検査の進歩, ウイルス肝炎マーカー最近の話題: エバネットEV20を用いた新しいHCV抗体検査 (H.R.I, ダイキン工業(株)) 緊急検査におけるPOC測定導入と意義 (株)テクノメディカ)
第31回 平11 (1999)	STD臨床検査の問題点—クラミジア感染症を中心に— (ロシュ・ダイアグノスティックス(株)) 新しいグリコヘモグロビン測定装置(1,5分法)の基礎評価 (京都第一科学(株)) 細菌検査の自動・システム化—感染症コントロールの観点から— (長瀬産業(株)) 凝固・線溶検査の新しいシステム; マルチアッセイ原理を組み合わせた新凝固測定装置(国際試薬(株)) 各種肝炎ウイルスマーカー定量測定の臨床的有用性 (ダイナボット(株)) ポイントオブケアにおける検査の有効利用とシステム化 (ベックマン・コールター(株))
第32回 平12 (2000)	Point-of-Care Testing ; Delivering • Benefit to the Bedside (扶桑薬品工業(株)) 細菌検査での自動化・迅速報告と臨床的有効性 (日本ビオメリュー(株)) 米国におけるクオリティマネージメント (日本バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)) 検査室の採算性—代表項目平均コスト指数と臨床検査部門の収支管理システム—(株)エイアンドティー) 糖鎖関連腫瘍マーカーをめぐる最近の話題 (ニッターボーメディカル(株)) 赤血球沈降速度(赤沈)の次世代測定方法の紹介と臨床的意義 (ベックマン・コールター(株))
第33回 平13 (2001)	腫瘍マーカーコントロールの開発 (日本バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)) 富士ドライケムシステム「検査データの標準化」について (富士フィルムメディカル(株)) POCT臨床現場での活用・オーダリングシステムとの接続 (扶桑薬品工業(株)) 米国におけるPOCTの展望 (シスメックス(株)) イムライズ2000による全自動アレルギー検査 (株)ダイアヤトロン) 検査室改善へのアプローチ—院内検査アピールの第一歩として (株)エイアンドティー) 検査部の24時間体制—アンケート調査の解析— (オーソ・クリニカル・ラボラトリーズ(株))
第34回 平14 (2002)	イムライズ2000によるアレルギー検査の実際 (株)ダイアヤトロン) 米国におけるホモシスチン及び心筋梗塞マーカーの最近の話題 (バイエルメディカル(株)) 血液臨床医が期待する自動血球分析装置の機能 (シスメックス(株)) 効果的な院内感染対策の実践—微生物検査におけるEBM— (日本ビオメリュー(株)) HCV抗原検査の使用経験と臨床への応用 (オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株)) TDMの考え方—体内薬物動態を中心に— (デイドペーリング(株)) 救急医療におけるPOCT対応血球計数装置の実用化を考える (シスメックス(株)) CBC+5 Diff検査ができる小型装置Pentra60の成績と望まれる環境 (株)堀場製作所) 検査室改善へのアプローチ—代表項目平均コスト指数と機能評価シートによる検査室評価の試み (株)エイアンドティー) 輸血業務における安全対策の試み—全自動輸血検査システム (オートビュー, BTD) とPIS輸血確認システムを組み合わせた輸血過誤防止システムについて—(オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株)) 富士ドライケムシステム「検査データの標準化」について (富士フィルムメディカル(株))

回数	テーマ名
第35回 平15 (2003)	Small, dense LDLと動脈硬化 (デンカ生研(株)) 21世紀における検査部の在り方 (シスメックス(株)) 病診連携時代に向けた血液検査診療支援モデル—Telehematologyの試み— (シスメックス(株)) 迅速検査体制による臨床との連携—帝京大学病院中央検査部の試み— (ロシュ・ダイアグノスティックス(株)) TDMの考え方—免疫抑制剤を中心に— (デイドベーリング(株)) これからの感染症診断支援—DPC/PPS導入にあたって：米国の感染症診療の現況と医療制度について— (日本ビオメリュー(株)) 富士ドライケム「検査データの標準化」による効果と精度管理試料マトリックスの解明 (富士フィルムメディカル(株)) 血清脂質代謝異常と動脈硬化—最近の話題 (シスメックス(株)) 検査室改善へのアプローチ—検査室のリエンジニアリング— (株エイアンドティー) The Role of Biological Variation and Future QC Trends (日本バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)) 全自動尿分析装置・クリニテックアトラスXLの使用経験(特に日常検査における蛋白/クレアチニン比の臨床効果、蛋白/クレアチニン比の新規導入によってわかった事、期待できる事) (バイエルメディカル(株))
第36回 平16 (2004)	検査室改善へのアプローチ5—検査室のリエンジニアリング— (株エイアンドティー) 腎臓専門医が期待する新しい腎機能検査 (デイドベーリング(株)) 血液検査の標準化とラボラトリーマネジメントの重要性 Quality Control in Haematology : Past, Present and Future (日本光電工業(株)) 血液凝固検査の集約化：次世代の血液凝固自動分析装置ACL TOP (株三菱化学ヤトロン) 次世代の感染症の迅速診断体制の構築 (日本ビオメリュー(株)) Integrated Solution/統合的解決の方向 (株エイアンドティー) 生化学検査におけるマトリックスの影響のない精度管理試料について (富士フィルムメディカル(株)) 血小板減少性疾患における網血小板測定の意味と可能性 (シスメックス(株)) 臨床医から見たFDPとDダイマーの臨床的意義・検査に対する要望 (第一化学薬品(株))
第37回 平17 (2005)	肥満とメタボリックシンドローム (第一化学薬品(株)) ドライケミストリーとウェットケミストリー共通の精度管理試料とは？ (富士フィルムメディカル(株)) 糖尿病検査項目自動分析装置DM-JACKによる効率化の試み (協和メデックス(株)) 次世代検査情報システムを考える—品質保証・患者認証・業務効果を中心に— (株エイアンドティー) 生体肝移植と臨床検査—破碎赤血球検出の臨床的有用性— (シスメックス(株)) 検査室改善へのアプローチ6—検査室のリエンジニアリング— (株エイアンドティー) ISO15189臨床検査室認定審査を受審して (シスメックス(株)) シスタチンCの日常診療への導入により腎機能検査はどう変わるか？ —腎臓専門医が取り組む新しい腎疾患診断法— (デイドベーリング(株)) 次世代日立生化学自動分析装置・LABOSPECTシリーズの紹介 (株日立ハイテクノロジーズ)
第38回 平18 (2006)	メタボリックシンドロームでのレムナントリポ蛋白代謝異常と新規レムナントコレステロール直接測定法 (協和メデックス(株)) 検査室のワークフロー改善 (東芝メディカルシステムズ(株)) 検査室改善へのアプローチ7—検査室のリエンジニアリング— (株エイアンドティー) 登録衛生検査所の標準化への取り組みとドライ分析機との互換性に関する考察 (富士フィルムメディカル(株)) 新しい血液ガス分析装置GEMプレミア4000の紹介 (アイ・エル・ジャパン(株)) 尿検査室の新提案：全自動分析装置UA・ROBO-700iの有用性について (株テクノメディカ) 磁性ビーズを用いたマルチプレックス法による同時多項目分析システムBioplex (日本バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)) CRPをめぐる最近の話題 (デンカ生研(株))

回数	テーマ名
	<p>挑戦し続ける検査室一再編に求められる意識改革—(オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株)) 凝固障害症における止血能評価の新展開—先天性および後天性血友病を中心に (シスメックス(株)) 血液細胞を用いた遺伝子検査標準化に向けて (株)キアゲン) 抗リン脂質抗体症候群における血栓マーカーの臨床応用—臨床現場から検査室への要望 (第一化学薬品(株)) 学校検尿制度による小児腎疾患の診断と治療 (アークレイマーケティング(株)) 時代が求めるリソース・プランニングに応えるために—電子カルテ標準化I/Fへの取り組み・セキュリティ・品質保証・システム保守業務の実際— (株)エイアンドティー)</p>
<p>第39回 平19 (2007)</p>	<p>メタボリックシンドローム健診と臨床検査 (東ソー(株)) 2008年度診療報酬改定に向けて (ロシュ・ダイアグノスティックス(株)) 新興インフルエンザとその対策 (シスメックス(株)) チャンスを生み出せ!—「守り」から「攻め」へのポジティブ思考 (オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株)) 検査室のワークフロー改善 (東芝メディカルシステムズ(株)) 血小板算定の標準化; 標準法および標準物質の開発の現状 (日本光電工業(株)) 臨床検査への実用化を目指した疾患プロテオミクス研究 (ニッポーメディカル(株)) イムノアッセイの革新—一次世代のイムノアッセイ測定原理LDCI法— (デイドベ어링(株)) 検査情報システムに課せられた使命—品質保証・標準化・リスク管理・データマイニング— (株)エイアンドティー) 尿沈渣検査の自動化はどこまで検査室に貢献できるか—精度向上と効率化の実例— (アークレイマーケティング(株)) 甲状腺疾患と抗TSHレセプター抗体 (東ソー(株)) 地球温暖化と輸入感染症—世界のデング熱流行と日本— (バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)) 尿検査を変える! テクノメディカUA・ROBO700i登場!—その性能と効果は?— (株)テクノメディカ) 特定健診に向けた検査部の在り方—特に精度管理について— (旭化成ファーマ(株)) 検査室改善アプローチ8—東海大学病院のチャレンジャー— (株)エイアンドティー) 種々の可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)測定試薬とその測定値の意味するもの (第一化学薬品(株)) チーム医療としての救命救急を考える—あなたはチーム医療の一員?— (ベックマン・コールター(株)) POCT対応富士フィルム—Pointchem60—の基礎的検討 (富士フィルムメディカル(株)) B型、C型肝炎の最新治療と検査 (ロシュ・ダイアグノスティックス(株))</p>
<p>第40回 平20 (2008)</p>	<p>甲状腺疾患と抗TSHレセプター抗体 (東ソー(株)) 検査室のボトルネックを探せ!—Lean検査室の構築— (株)エイアンドティー) メタボリック健診の検査室への期待 (積水メディカル(株)) 院内自主運営検査は必要か?—病院経営者の視点から— (東芝メディカルシステムズ(株)) 新しい検査の登場はウイルス肝炎の診療を変えるか? (シスメックス(株)) 血液培養におけるワークフローの改善 (日本ベクトン・ディッキンソン(株), 栄研化学(株)) CETP阻害剤開発で注目される超善玉リポ蛋白—アポEリッチHDL (協和メデックス(株)) 抗核抗体検査スクリーニングと精密測定—現状と将来の展望— (バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)) 血液ガス分析装置GEMプレミア4000最先端のセンサーテクノロジー (アイ・エル・ジャパン(株)) オリンパス自動分析装置AU680における全自動HbA_{1c}測定機構と新試薬のご紹介 (オリンパス(株)) HbA_{1c}の国際標準化にむけて—臨床医の立場から— (アークレイマーケティング(株)) Techno Medica社製UA・ROBO-700iとSysmex社製UF-1000iの組み合わせによる一般検査業務の合理化 (株)テクノメディカ) 検査室改善へのアプローチ9—問題解決への情報活用— (株)エイアンドティー) 実例を用いた臨床検査データの読み方講座—病態、そして人に思いをはせながら— (株)日立ハイテクノロジーズ) 互換性のある検査値の追求 (ベックマン・コールター(株))</p>

回数	テーマ名
	<p>結核の院内感染対策および迅速診断の有用性（東ソー㈱）</p> <p>更なる診療支援を目指してー検体検査におけるリソース戦略の再構築ー（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス㈱）</p> <p>リスクの評価ーそれはインスリンを知ることからーメタボの真犯人？インスリンは悪者ですか？ー（関東化学㈱）</p> <p>新しい血液凝固分析装置「ACL TOP500CTS」のご紹介（三菱化学メディエンス㈱）</p> <p>富士ドライケムシステム 検査データ標準化の取り組み（富士フイルムメディカル㈱）</p>

■アンケートに見る日本臨床検査自動化学会展示会(過去5年間)

●来場者職種 (%)

来場者職種	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回
医師	2	2	1	1.7	1.6
臨床衛生検査技師	29	29	29	28.3	28.9
薬剤師	0	0	0	0.2	0.2
看護婦	0	0	0	0.1	0.0
事務職員	4	1	0	0.6	0.5
研究開発職員	13	15	15	14.5	15.5
営業職員	33	3	29	31.8	29.4
学生	1	1	1	0.6	4.1
その他	15	17	21	17.2	14.0

●来場者の勤務先 (%)

来場者の勤務先	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回
病院	26	27	24	24.7	24.7
検査センター	7	7	6	6.2	6.1
保健所	0	0	0	0.1	0.0
官公庁研究機関	0	1	0	0.2	0.3
民間企業研究機関	4	4	5	3.6	3.9
メーカー・商社	43	45	44	45.3	43.6
ディーラー	9	6	6	8.0	6.8
その他	11	10	11	12.0	11.9

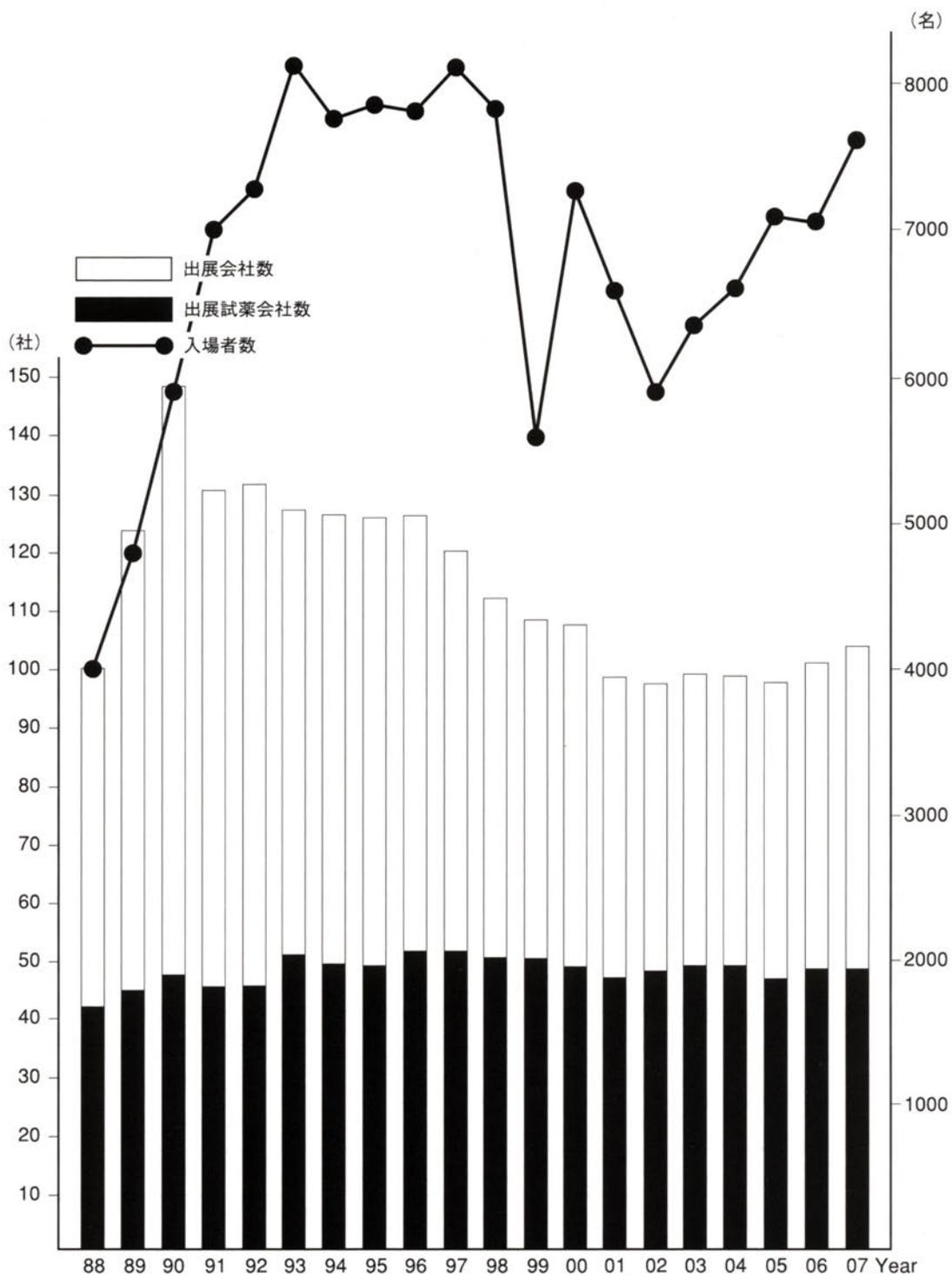
●来場者の年齢構成 (%)

年齢構成	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回
20歳以下	0	1	1	0.5	2.3
20歳代	14	13	13	12.4	14.4
30歳代	28	28	24	25.1	23.5
40歳代	34	33	32	31.6	30.1
50歳代	19	21	20	21.8	22.6
60歳代	2	3	3	2.9	3.7
不明	3	1	7	5.6	3.5
合計	100	100	100	100	100

●海外からの来場者内訳 (人)

国名	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回
中国		47	34	24	79
アメリカ		25	33	21	7
韓国		54	45	78	74
ドイツ		1	1	3	1
オーストラリア		0	1	1	1
イギリス		7	6	4	0
台湾		1	14	35	9
フランス		5	5	5	1
イタリア		0	3	11	2
オランダ		1	0	0	1
スイス		0	2	1	2
その他		22	87	123	64
合計		163	231	306	241

■出展会社と来場者の推移



臨床検査の自動化とともに

— 日本臨床検査自動化学会40周年記念 —

平成20年10月9日発行

発行 日本臨床検査自動化振興会

発行人 中井 利昭

〒113-0033

東京都文京区本郷3-19-6 ワイユビル6F

TEL(03)5689-5910 FAX(03)5689-5917

<http://homepage3.nifty.com/jacla/>

JSCLA / JACLA